

令和8年度 第1回学校運営協議会 及び 第1回コンプライアンス委員会 議事録

静岡北特別支援学校 南の丘分校

1 日時 令和8年5月22日(金) 午前10時から正午まで

2 会場 駿河総合高等学校 会議室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員 7人

富士見学区自治会連合会会長登呂二丁目自治会長	地域関係
独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 静岡支部静岡職業能力開発促進センター 所長	就労・障害者雇用関係
静岡市駿河区役所地域総務課地域防災係係長	防災関係
静岡市駿河区保護司 (防犯予防担当・防災予防副会長)	防犯関係
常葉大学教育学部講師	障害福祉・指導関係
法律事務所 弁護士	司法 障害福祉
南の丘分校 PTA 会長	保護者代表

※うちお二人、欠席。

(2) 本校職員

校長、副校長、事務長、部主事、進路指導主事、教務課長

4 会議次第

(1)開会

(2)分校経営について(第1回コンプライアンス委員会を兼ねる)

(3)授業参観

(4)質疑応答

(5)閉会

5 会議内容

(1)開会

ア 司会(副校長)より

- ・開会挨拶
- ・本日の内容について

イ 学校運営評議委員の任命(校長)

※野村様にはあらかじめ、「コーディネーター」を依頼している。

ウ 校長挨拶

- ・鈴木校長は普段、漆山にある本校(小・中・高の児童生徒約350名が在籍)に勤務。
学校運営協議会や行事等の際に南の丘分校へ足を運び、生徒たちとコミュニケーションを図っている。
- ・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の意義:「生徒を真ん中に置き、生徒たちの学校生活がより豊かで安心安全なものになるために、地域や外部の皆様が知恵を出し合う『作戦会議』のような場にしていきたい」との方針が示された。
- ・本日の予定:後半の授業参観では、新1年生の初々しい様子や、最上級生として頼もしく成長した3年生の姿を見て、分校の今を感じていただきたい旨が伝えられた。

(2)分校の運営について

ア 副校長より、今年度の学校経営の基本方針についての説明

- ・学校目標:「共生社会に生きる人」～地域での自立と生活の実現に向けて～

- ・目指す生徒像：「互いの良さを認め合いながら、共に高め合う人」
自ら学び、考え、発信し合う姿の育成。
規則正しい生活習慣の定着。
社会で生きて働く人の育成。
- ・特色：隣接する駿河総合高等学校との「共生教育」および、地域社会と密接に結びついた活動の推進。

イ 部主事より、駿河総合高等学校との交流や新たな授業連携、直近の行事予定について報告

- ・合同行事の実施：体育祭、マラソン大会、ファーストミーティング（5月の作業体験紹介）、ビブリオバトルなどを年間通じて合同実施。
- ・【注目行事】文化祭「駿高祭」（6月5日・6日開催）：
6月5日（金）〔ステージ発表〕：南の丘分校の1年生が全員で「トーンチャイム」の演奏を披露。駿河総合高校は和太鼓演奏や演劇などを発表。同じステージを共有し、互いの文化・活動を称え合う。
6月6日（土）〔校内公開・模擬店・販売〕：分校は作業学習の紹介や、丹精込めて作った作業製品の販売会を実施。毎年非常に盛り上がり、多くの卒業生も元気な姿を見せに集まる重要な機会となっている。
- ・新たな授業連携（デザイン・流通）：駿河総合高等学校のデザイン系学科と連携し、高校生が考案したデザインを分校の生徒が作業学習で「製品（メモ帳など）」として形にする協働授業を開始。

ウ 質疑応答

駿河総合高等学校と合同で実施する「建物内の上階へ避難する訓練（垂直避難）」について意見交換が行われた。

学校側の想定：

当地域は津波の浸水想定区域外だが、万が一の災害時に「全員で上の階に上がる」意識を持たせる。また、災害時に地域住民が避難してきた際に教室を開放し、生徒は上階で過ごす状況も視野に入れている。

委員からの意見・指摘：

- ・実際に被災して校内に留まる（避難生活を送る）ことになった場合、保護者への引き渡し方法や待機期間の目処を具体的に検討しておく必要がある。
- ・東日本大震災時のように津波警報が数十時間解除されないケースを考慮すると、一日以上滞在するための「トイレの確保」や「水・食料の備蓄」が極めて重要な課題となる。

地域との交流について

- ・環境整備（有明地区）：

有明地区の公園や施設を、作業学習で環境整備班に所属する生徒たちが清掃。生徒たちの元気な姿や挨拶が、地域住民が外に出て交流する良いきっかけ（地域の活力）として喜ばれている。

- ・外部イベントへの出店：

駿河区の地域イベント（トロバーフェス）に作業製品を出店。学校内の販売ではあまり売れない「アクセサリ類」や「富士山関連グッズ」が一般のお客様に大人気となった。客層によるニーズの違いを肌で感じる、生徒にとって貴重な社会学習の場となった。

エ 進路指導主事より、3年間の段階的な進路指導と実績について報告された。

- ・指導方針：3年間で計6回の職場実習（地元企業や福祉サービス事業所）を段階的に実施。

1年生（知る）：自己理解と社会を知る

2年生（考える）：進路の方向性や将来の生活を具体的に考える

3年生（決める）：納得のいく進路・生活を決定する

・令和7年度（昨年度）卒業生17名の進路実績

一般就労（障害者雇用）：14名

（内訳：飲食業4名、製造業3名、物流2名、事務2名、小売2名、清掃1名）

障害福祉サービス：1名（福祉型大学校など）

進学：2名

（専門学校等への進学。教育課程上は稀なケースながら本人の希望を実現）

・令和8年度（今年度）3年生25名の進路希望状況

一般就労希望：17名

障害福祉サービス希望：5名

（就労継続支援A型：3名、B型：1名、就労移行支援：1名）

その他（検討中・迷っている等）：3名

※現在、本人と保護者を交えた三者面談を実施し、進路決定に向けて、丁寧なサポートを行っている。

オ 教職員の不祥事防止計画について、具体的な取り組みと意見交換が行われた。

・学校側の取り組み：

職員個人の誇りや使命感を振り返る評価シートを活用し、同僚性の高いチームづくりを推進。「生徒と2人きりにならない」「携帯電話で私的なやり取りをしない」などの具体的ルールを徹底し、保護者へも共有している。

・委員（若狭様）からの提案：

金銭トラブル（借金）やアルコール・ギャンブル依存など、同僚や先輩には表立って相談しにくい個人的な悩みが不祥事に発展するケースが多い。組織内の窓口とは別に、プライバシーが完全に守られ、専門的な治療や解決に繋がられる「二重のクローズドな外部相談窓口」を設置することが有効である。

(3) 授業参観（1年生活単元学習、2，3年作業学習）

(4) 質疑応答

授業参観（作業学習等）について、委員から多くの肯定的な感想が寄せられた。

委員からの感想：

- ・生徒一人ひとりが自分の役割をしっかりと理解し、誰一人として集中を切らさず前向きに取り組んでいる姿に大変感銘を受けた。声をかけてもらうことが生徒の大きな自信につながっていると感じる。
- ・分校の生徒たちが、駿河総合高校の環境や敷地に自然に溶け込んで活動できている点が素晴らしい。

(5) 閉会

次回の予定（第2回学校運営協議会）：

- ・近日開催される駿河総合高校の文化祭（駿光祭）での生徒の様子（1年生のトーンチャイム発表や高等部の作業製品販売など）を委員各自が見学。
- ・この見学を踏まえて「共生教育」をメインテーマに据え、アンケートで感想や意見を伺う。